

自動採点で

高品質・省労力な授業

400名近い履修者を抱える「人工知能概論」で毎回、授業後に小テスト(自動採点)を実施しているという谷口先生。内容は用語に関する簡単な復習問題です。

「大規模授業で、全員を『動』の状態にするのは正直、無理。とはいえ、1回でもテキストを開いて自分で学ばないと、人の話を聞くだけでは頭に入ってきません。学習習慣を身に付けさせるための苦肉の策が小テストなんです」。

履修者数から考えて、紙ベースのテストを毎回採点し、返却するのは困難。ところが自動採点機能を使えば、学生からの解答を即座に採点した上、提出状況まで逐次管理できます。省労力・省時間、しかも質は落とさずに、通常は小規模の講義でしかできない内容を大規模授業で実現。谷口先生が「サクサク使えて、学内サービスらしからぬユーザビリティ」と評するmanaba導入の意義は、授業品質の向上と効率化にあるといいます。

フィードバックをリッチにする

得点をフィードバックすることにより、学生のモチベーションも大きく上がりました。小テストの結果は、得点ベースで平常点にも加算されます。

「人をモチベートするのはゲームです。ゲームの4大要素はゴール、ルール、フィードバックシステム、自発的な参加。ところが大学では、フィードバックが非常に弱くなりがち。自動採点の小テストなら、受けるたびに自分の得点が返ってくるので、その都度、学習の進み具合を実感できますよね」。

またフィードバックを返すのが遅ければ遅いほど、返された側は、何がどう結果に影響したのか、帰属させにくくなるといいます。そういった側面からも、毎回得点を出す

大規模授業の不可能を可能にする



ということが重要なのだとか。

「フィードバックは、速く、明確に、確実に、が基本です」。

期末の点数も週内に返すスピード感

前回の期末試験では画期的なフィードバックが成されました。火曜日に実施した期末テストの得点を金曜日の夜にはmanaba上でアップしたのです。

「得点が分かったところで、成績評価が変わるわけではありません。ただ、学生自身がやったことをそのまま返すだけで、『スゴイ!』『うれしい!』と大きな反応が返ってきました」。

予想外のフィードバックは、新鮮な驚きと歓迎をもって受け入れられました。このように学生目線の試みを積み重ね、知的好奇心や学習意欲を刺激することが、教育の質をキープすることにつながるのだといいます。

さじ加減は通用しない明快なルール

60点以上が可と、成績基準を明らかにした上で得点公開をしたことが、成績に教員のさじ加減が通用しないと証明する結果にもなったのだとか。つまりは、前述の4大要素におけるルールが明確になっているということ。学生は単位取得というゴールに到達するため、何をすべきなのか、しっかり見定めて自発的に学ぶことができます。

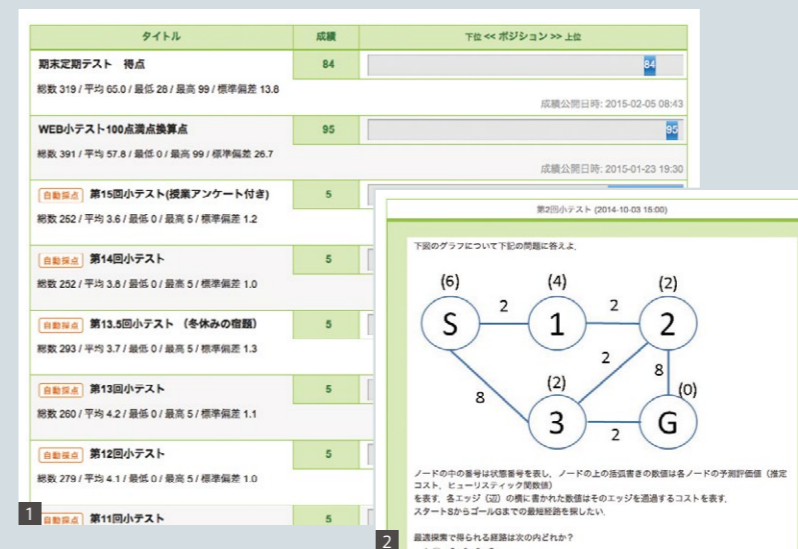
教員間の情報ツールとしての可能性

取材中、「実は去年の小テストの問題は、ほとんどこの本に使ってしまったので、今年は新たに問題を作り直す必要があった」と、manaba上で過去に使用した内容が掲載されているという著書『イラストで学ぶ 人工知能概論』を見せてくれた谷口先生。「僕のサイトに全15回分のスライドも

無料でアップしているの、本を教科書として授業導入するときも、講義がやりやすいんですよ」とのこと。学内のみならず、他大学の教員とも情報を共有していけば、授業内容の向上や、教員の省労力化につながるのだといいます。

「将来的には、manabaを使っている大学間で、教員同士が活発にやりとりできるようになったらいいですね」。

manabaは、まだまだ便利になれる。谷口先生のビジョンは、さらに広がります。



1 人工知能概論の成績一覧画面です。学生はここから、毎週出題される自動採点小テストの結果や期末定期テストの得点を確認しています。

2 人工知能概論の小テスト回答入力画面です。内容はテキストに沿った構成となっています。自動採点小テストのため、学生は回答すると受付終了日時に採点結果が届き、確認することができます。

授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席